

宣言自治体(東京)(2022年10月1日時点 日本非核宣言自治体協議会調べ)

●市(26市中25市)

- ・八王子市 ・立川市 ・武蔵野市 ・三鷹市 ・青梅市 ・府中市
- ・昭島市 ・調布市 ・町田市 ・小金井市 ・小平市 ・日野市
- ・東村山市 ・国分寺市 ・国立市 ・福生市 ・狛江市 ・東大和市
- ・清瀬市 ・東久留米市・武蔵村山市・多摩市 ・稲城市 ・羽村市
- ・西東京市

●区(23区中23区)

- ・千代田区 ・中央区 ・港区 ・新宿区 ・文京区 ・台東区
- ・墨田区 ・江東区 ・品川区 ・目黒区 ・大田区 ・世田谷区
- ・中野区 ・杉並区 ・豊島区 ・北区 ・荒川区 ・板橋区
- ・練馬区 ・足立区 ・葛飾区 ・江戸川区 ・渋谷区

●町(4町中2町)

- ・日の出町 ・奥多摩町

●村(9村中2村)

- ・三宅村 ・小笠原村

他市の宣言文の分類・・・他市の宣言文を大きく2つに分類

パターン特徴

(A)定型パターン

定番フレーズ・定番構成の使用が多い。

(B)非定型パターン

定番フレーズ・定番構成の使用が少ない。

○定番フレーズ

- ・恒久平和
- ・(国是である)非核三原則
- ・「持たず、作らず、持ち込ませず」
- ・世界で唯一の(戦争)核被爆国
- ・ヒロシマ・ナガサキ(の惨禍)
- ・核兵器の廃絶
- ・平和を愛する
- ・核軍備拡大競争は依然として続けられている。
- ・人類共通の願い
- ・平和憲法

○定番構成 ※太字は定番フレーズ

恒久平和は人類共通の願いである。しかし核軍備拡大競争は依然として続けられている。

「平和は全人類の願いである → しかし(平和でない世界の現状)」の書き出し

私たちは、世界で唯一の核被爆国として、
ヒロシマ・ナガサキの惨禍をくりかえしてはならない。
決意・主張など

平和な世界の実現のため、非核三原則を堅持し、核廃絶を訴え、
～のために(目的) ～する(行動)

ここに「非核平和都市」を宣言する。
宣言

(A) 定型パターン

【例:青梅市】…ですます調

青梅市非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。私たちは、世界唯一の核被爆国の市民として、日本国憲法の平和の精神を守り、平和を愛する世界の人々と手を携えて、核兵器や戦争のない平和な世界の実現を願い、努力してきました。しかし、核兵器の拡大拡散の脅威はなくなり、世界の各地で武力紛争や戦争が絶え間なく続き、平和とは程遠い様相を呈しています。青梅市は、戦後60年を迎えるに当たり、平和の誓いを新たにし、この世界が核兵器や戦争のない平和な世界となることを願い、ここに非核平和都市となることを宣言します。

平成17年7月19日 青梅

【例:小金井市】…である調

小金井市非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。しかるに、核軍備拡大競争は依然として続けられ、人類が平和のうちに生存する条件を根本からおびやかす段階に至っている。また、通常兵器の軍備拡大競争も一段と激化し、世界の各地で武力紛争や戦争が絶え間なく続き、限定核戦争の脅威がせまっている。わが国は、世界の唯一の核被爆国として、また、平和憲法の精神からも、核兵器の全面廃絶と軍備縮小の推進に積極的な役割を果たすべきである。したがって、わが小金井市は、非核三原則の完全実施をねがい、あらゆる国のあらゆる核兵器に反対し、その全面廃絶と軍備縮小を求め、あわせて国際連帯のもとに、核兵器廃絶の世論を喚起するため、ここに非核平和都市となることを宣言する。

昭和57年4月1日 小金井市議会

(B) 非定型パターン

【例:西東京市】

非核、平和都市宣言

私たちは生きている。おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち 様々な考え方と、異なる環境の下で生活している この地球で 私たちは持っている。この地球で、健康で幸せな生活をする権利を 異なる考え方の人々を差別しない義務を 私たちは知っている。おおくの人々が、今なお戦争で

傷つき命を失っていることを 住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを 私たちは訴える。必要なのは笑顔での話し合いであることを 必要なのは人類愛と思いやりであることを 私たちは宣言する。あらゆる人傷つける地雷や武器をなくすことを あらゆるものの破滅を招く武器をなくすことを 地球上から戦争をなくすことを 私たち市民のこの声と願いを 世界に広く訴えるために 非核、平和都市西東京市の宣言とする。

平成14年1月21日 西東京市

【例：静岡県島田市】

「おはよう」

「おはようございます 今日はいいいお天気ですね」

「ってきます」

「いってらっしゃい 気をつけてね 」

何げないあいさつを 交わしあえるよろこび

それは 平和という宝もの

でも それは争いや災害など

多くの苦しみや悲しみを乗り越えた

強さや優しさによって

築きあげ 守られてきたもの

現在を生きる私たちに 託されたことは

すべての人に 永遠の平和が訪れるよう

お互いを認め合い 助け合い

分かち合える社会を実現し

次の世代へつないでいくこと

私たちは呼びかけます

「今日より明日をいい日にしよう」

「生命の尊さを伝えよう」

「あなたがいてくれてありがとう」

そして すべてのものに「ありがとう」

私たちは叫びます

「人を傷つけ不幸にするものはいらない」

「歴史が培った大切な財産を 消し去ることは許さない」

私たちは宣言します

大井川の清流に育まれた 緑ゆたかな島田市が

平和を願う 世界中の人たちとともに

笑顔の絶えない 明るい未来をめざして

歩みつづける 平和都市であることを

平成26年7月3日 島田市

宣言文の要素の分類・・・宣言文に含まれる要素を分類

要素 特徴

(a)独自要素

当該自治体特有の表現

(b)時事要素

宣言当時の具体的な世界情勢

(c)他問題要素

非核以外の問題

(a)独自要素…当該自治体特有の表現

【例:小平市】

小平市非核平和都市宣言

世界の平和の実現と核兵器の廃絶は、わたしたち人類共通の願いです。

しかし、世界ではいまだ戦争がやまず、核兵器は人類の脅威となっています。

わたしたちは、世界で唯一の核兵器による被爆を体験した国民として、その悲惨さや恐ろしさを全世界に伝えていく重要な役割を担っています。

先人が築いた玉川上水の清らかなせせらぎと、緑豊かな大地に育まれたこの小平の地を守り、次代を担う子どもたちに引き継いでいくために、わたしたち小平市民は、友愛の心を持ち、平和の実現に努めていきます。

小平市は、戦後 60 周年にあたり、すべての国の核兵器の廃絶を求め、平和への誓いを新たにし、ここに非核平和都市であることを宣言します。

平成 17 年 6 月 7 日 小平市

【例:羽村市】

羽村市平和都市宣言

世界の平和は、人類共通の願いです。

私たちは、日本国憲法の平和の精神を守り、世界の人びとと手を携えて、戦争の防止と、被爆国としての悲惨な体験から、核兵器のない世界平和の実現に努めます。

平和と友愛の心を育み、多摩川の清流と、花と緑に恵まれた、この美しい郷土「はむら」を未来に引き継ぐことは、私たちの責務です。

羽村市は、戦後 50 周年にあたり、平和の誓いを新たにし、ここに平和都市であることを宣言します。

平成 7 年 8 月 10 日 羽村市

(b)時事要素…宣言当時の具体的な世界情勢

【例:栃木県小山市】

非核宣言に関する決議

今日、米ソを中心に「核軍拡」競争は、激しさを増しています。極東においてもSS20の配備に続いて、この6月から巡航核ミサイルトマホークが米太平洋軍に配備されるなど緊迫の度を強めております。これら「戦域」核ミサイルの配備により、米・ソ自身は傷つかない局地核戦争の危険が極めて大きくなってきております。

私たち一人一人の力は微力ですが、世界の民衆が手を結び、核戦争の危機を回避すべきであります。そしてかけがえのない命とくらしと平和を守るための手だてを講じていく以外に方法がありません。

したがって小山市は、非核三原則が完全に実施されることを願いつつ、核兵器完全禁止、軍縮、全世界の非核武装化に向けて努力することを宣言する。

1984年12月21日 小山市議会

(c)他問題要素・・・非核以外の問題

【例:茨城県つくば市】

つくば市非核平和都市宣言

広島・長崎に原爆が投下されてから四十五年がたちました。あの悲劇を二度と許さないという多くの人の訴えにもかかわらず、いまなお人類を絶滅させて余りある核兵器が世界に存在し続けています。青い空、緑豊かな大地、歴史に育まれたふるさとを核戦争の惨禍にさらしてはなりません。世界をリードする国際科学都市つくば市は非核平和都市宣言を行い、核兵器廃絶と平和の願いを内外に示します。

- 一、(非核)核兵器の廃絶を求めること
 - 一、(平和)戦争に反対すること
 - 一、(科学技術)軍事研究に反対すること
 - 一、(環境)青い空、みどり豊かなふるさとをまもること
 - 一、(国際)世界の人々と平和を通じて交流すること
- 上記決議する。

1990年9月27日 つくば市議会

市制施行のタイミングで宣言している自治体

【例:稲城市】

稲城市平和都市宣言

かけがえのない、この美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人々の心は共通のものであります。現行憲法に貫かれた平和の精神をもとに、非核三原則を遵守し、世界の人々と手を携えて、人類永遠の平和を築くことが私たちの責務です。市民憲章の心を基本理念として、私たちは真の平和と幸せを望み、このまちに住み、このまちを愛し、いつまでも平和で友愛に満ちた心のふるさと、稲城をつくるために努力しています。ここに稲城市制 20 周年の年を迎え、平和への誓いを新たに決意し、稲城市が平和都市であることを宣言します。

平成3年3月7日 稲城市

【例:町田市】

町田市非核平和都市宣言

真の恒久平和を実現することは人類共通の願いであり、世界で唯一の核被爆国の国民として私達は、そのために積極的に寄与する努力を続けてきた。しかるに、核軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和に深刻な脅威をもたらしている。町田市は、日本国憲法に掲げられた平和主義の理念を、市民生活の中に生かすことが、地方自治の基本条件の一つであることにかんがみ、「つくらず、持たず、持ち込ませず」の非核三原則が、完全に実施されることを願い、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を、全世界に向かって訴えるものである。町田市は、本日ここに市制施行25周年を迎えるに際し、あらためて平和への誓いを新たにし、非核平和都市となることを宣言する。

1983年2月1日 町田市

【例:多摩市】

多摩市非核平和都市宣言

多摩市は、この緑豊かな土地に生まれ育ち、あるいは全国各地から夢と希望を持った、多くの人たちが集まってできたまちです。私たちは、太陽の光あふれるこの多摩市で、穏やかな日々の生活を平和

だと感じて暮らしています。

この暮らしのなかで、いつしか広島・長崎の記憶が薄れつつあり、世界には今もたくさんの核兵器が存在すると知りながら、平和は失われやすいことを忘れかけていました。

平成23年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に、私たちは多くのことを学びました。自然の力に対する謙虚さを忘れ、人間の科学技術を過信していたこと。安全と言われていた原子力発電所から、ひとたび事故が起これば大量の放射性物質が拡散され、大事に育て築いてきたものが、たちまち奪われうることを。

私たちは、人と人との絆を大切に、原子力に代わる、人と環境に優しいエネルギーを大事にしていきます。そして、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて、みんなが笑顔で、多様ないのちがにぎわうまちを、多摩市から実現していきます。

現在、そして未来の子どもたちに戦争の悲劇と平和の大切さを伝え、他の都市とともに世界の人々と手をたずさえて、全ての核兵器の廃絶と平和な社会を求めるために、ここに多摩市が非核平和都市であることを宣言します。

2011年11月1日 多摩市

・多摩市…市制施行40周年(2011年11月1日)